

The Journal of Chinese Academy of Science and Engineering in Japan

全日本中国人博士協会  
会誌



2004.12.30 Vol.2, No.01

特集 ■東京国際学術交流大会

- 協会会館開館
- 中国科協第5届青年学術年会
- 2004世界工程師大会（上海）

# 目 次

- 1 協会紹介  
会長挨拶  
協会の理念  
会員専門分野  
組織構成
- 5 特集－東京国際学術シンポジウム  
21世紀における科学技術の融合と発展  
－異分野の交流・浸透・再生
- 14 協会会館オープン  
開館式  
让我们的世界更加美好－开馆典礼上的讲话－任福继
- 18 協会会員受賞  
協会会員がまた財団法人エレキテル尾崎財団源内賞を受賞
- 20 学術会議報道  
中国科协第5届青年学术年会  
2004世界工程师大会(上海)
- 24 会員为国服务活动  
振兴长春工业基地国际研讨会  
相聚上海，共谋发展
- 29 会員生活インフォメーション広場  
著名大学：世界百校  
使領館インフォメーション
- 42 協会規約
- 47 入会申請申し込みフォーム
- 48 編集部からのメッセージ

## 会 長 挨拶

会長： 李 磊 （法政大学教授）

全日本中国人博士協会（以下、博士協会と略記）は、1996年7月に発足し、日本の教育機関・研究機関・民間企業などにおいて、学術研究・技術開発・企業経営などに従事している中国人博士ならびに日本から帰国された博士により構成されている団体です。

博士協会の主要な目的は、研究協力と学術交流を促進すること、情報共有と会員親睦を強化すること、中日両国における諸分野での架け橋の役割を果たすこと、会員の潜在的なパワーを最大限に発揮して会員の学術水準、学術地位および社会地位を向上させることにより、広く社会に我々の知恵と才能を貢献することにあります。

博士協会は学問の切磋琢磨と人間交流の場であります。学問とは何でしょうか？学問は人類の長い歴史の中で築かれてきた知識と技術が体系化されたものであります。交流とは何でしょうか？交流は発想の違い、経歴の異なる人間同士の間で、理性的に相手の意見や学識を聴いたり、情熱をもって自分の見方や意見を交換することによって、互いに真理へ近づくことであります。

博士協会は発足以来、電子ネットワーク、年会、セミナー等を通じて、会員間、会員と国内外の学者間の学術交流・研究協力、日中科学技術振興への協力などに関する活動を行ってきました。

現在、IT技術とインターネットによって世の中は大きく変革しようとしています。博士協会はこれに対応してダイナミックに変革していく必要があります。博士協会は（1）数学と自然科学、（2）人文と社会科学、（3）農学と工学、（4）医学と生命科学という幅広い領域で活躍されている人材で構成されておりますので、このような大変革時代に大きな貢献をすることができると考えます。このような大変革時代においては、従来の研究スタイルから脱却し、異文化・異分野を超えた研究スタイルがますます必要となります。さらに、日中両国内にとどまることなく、自分自身の従来のパラダイムを超え、地球規模にわたって国際的に活躍できる技術者を生み出したいというのが、博士協会の願いとするところであります。

博士協会は今後、「務実、創造、掛橋、貢献」という宗旨で、多姿多彩な交流活動や共同研究開発計画を推進していくつもりであります。会員の皆様の絶大なるご参与・ご協力をお願い致します。

## 博士協会の理念

- 科学技術振興への貢献
- 日中両国間の科学技術交流の促進
- 会員間の交流促進および会員の地位向上

## 主な協会活動

- 協会定期年会
- 各種インターネット学会議
- 協会学術雑誌の編集出版
- 中国国内との学術交流
- メンバー創業支援
- 技術コンサルティング
- メンバー間の懇親・交流



## 協会会員の専門分野

協会のメンバーは、九州、中国、四国、関西、中部、北陸、関東、東北、北海道、沖縄に渡って日本全土にいる。中国に帰国したメンバー支部もある。

学位分野	主要専門領域
工学、 理学、 農学、 学術、 医学、 歯学、 商学、 教育学、 経済学、 水産学、 国際学、 等	計算機科学、人工知能、分散人工知能、知識工学、ソフトウェア工学、ロボット、自然言語処理、計算工学、大規模並列分散システム、コンピュータネットワーク、学習オートマトン理論、情報処理、画像処理、画像認識、コンピュータービジョン、情報科学、画像計測、信号処理、マルチメディア通信、ヒューマンコンピューターインターフェース、マルチメディア仮想空間、ペン入力システム、機械学習、知識発見、データマイニング、知識ベース、記号処理と非記号処理の統合の方式、コンピュータグラフィックス、CAD、シミュレーション、プログラミング言語、光情報処理、光ニューラルネットワーク、数値計算、系统工程、Queuing theory、近似理論、大規模システム工学、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ、システム同定、電気通信、情報通信、リモートセンシング、無線通信、移动通信、衛星通信、デジタル通信、非線形力学、カオス工学、電磁気応用工学、熱工学、伝熱工学、レーザーベクトル、計算力学、デジタル信号処理、ウェブレット、現代非線形工学、応用物理、半導体集積回路、半導体表面・界面物理、光電子、光工学、光計測、微波工程、自動制御、計測制御、アンテナ、電波伝搬、電磁理論、計算流体力学、薄膜材料、金属表面工学、核融合工学、固体物理、材料設計、内燃機関工学、応用数学、数理統計学、計量生物学、計量経済学、統計学、機械工学、機械力学、機械システムの動力学、機械の最適設計、等。



## 第 8 期理事会構成：

会長	李 磊	法政大学	教授	
常務副会長	張 樹槐	弘前大学	助教授	
担当副会長	張 善俊	神奈川大学	助教授	
	趙 鳳濟	SMC Networks Co., Ltd.	次長	国内交流
	任 向実	高知工科大学	助教授	組織建設
	吳 景龍	香川大学	教授	学術交流
事務局長	劉 学振	三菱プレシジョン株式会社	Senior Engineer	
事務局	王 秀崙	三重大学	助教授	HP 管理
	張 兵	郵政省通信総合研究所	主任研究官	会計管理
	劉 峭	日本海上安全技術研究所	研究員	会員管理
監事	薛 昊堃	日本医科大学	助手	
理事	干 力行、高 学明、郭 書祥、加藤 ジェーン、劉 迪、劉 峭、劉 学振、劉 真、劉 震、任 向実、宋 碩林、王 立石、王 秀崙、吳 景龍、張 兵、張 紀南、張 善俊、張 樹槐、張 玉蒼、趙 鳳濟、趙 新為			
学術交流部	部長： 郭 書祥 副部長： 趙 新為、加藤 ジェーン、劉 震			
基金財政部	部長： 劉 真 副部長： 姜 東星			
創業支援部	部長： 高 学明 副部長： 干 力行			
広報出版部	部長： 劉 迪 副部長： 石 岩			
厚生福祉部	部長： 鄒 珍珍 副部長： 張 紀南			
組織建設部	部長： 張 玉蒼 副部長： 宋 碩林			
国内事務部	部長： 王 立石 副部長： 張 繼民			
博士協会館	館長： 馬 時			
理事所属	干 力行	株式会社ニッデク	主任研究員	
	高 学明	日本 SUC (株)	社長	
	郭 書祥	香川大学	助教授	
	加藤 ジェーン	名古屋大学	助教授	
	劉 迪	早稲田大学比較法研究所	研究員	
	劉 真	株式会社ニコン	係長	
	劉 震	長崎総合科学大学	助教授	
	宋 碩林	Applied Biosystems Japan	Senior Scientist	
	王 立石	長春市市政府	市長助理	
	張 紀南	城西国際大学	専任講師	
	張 玉蒼	日本学術振興会	外国人特別研究員	
	趙 新為	東京理科大学	助教授	

## 国際学術シンポジウム

# 21 世紀における科学技術の融合と発展

— 異分野の交流・浸透・再生 —

### 開催主旨

近年の IT 関連情報技術やゲノム関連生命科学を代表する各研究分野における技術革新並びに研究の進展は日進月歩である と言えよう。それに伴って、各研究分野がそれぞれ高度に発展し、更なる専門化・細分化は一層進んでいる。その中で、21 世紀における科学技術の飛躍を進めるために、各研究分野の相互交流、有機的な融合を通じ、新しい学際的な学問領域・研究分野の創出、既存な研究分野の再構築が必要不可欠と叫ばれて久しい。

そこで、このような科学技術の現状を踏まえ、全日本中国人博士協会が、標記の“21 世紀における科学技術の融合と発展 ”という国際学術シンポジウムを企画した。本シンポジウムは、“異分野の交流・浸透・再生”をキーワードに、主に中国、日本、欧米諸国の研究者・技術者が一堂に集まり、各々の研究分野における最新の研究成果を発表するとともに、21 世紀における科学技術の発展方向などについても活発に議論される予定である。

また、中国政府関係者から中国における科学技術の現状・将来に関して、主に科学技術推進政策などの面についても講演 される予定である。

ぜひ、この機会でご各研究分野での最先端の研究成果に触れながら、21 世紀の科学技術の将来像を一緒に考えてみようか。

### 主催

全日本中国人博士協会

### 共催

中華人民共和国駐日大使館、  
在日中国科学技術者聯盟、  
北海道新華僑華人聯合会、  
日本中華総商会、  
日本 SGI 株式会社、  
在日中国弁護士連合会、  
全欧華人專業協會聯合会、  
中国留徳学者計算機学会、  
全法中国科技工作者協會、

海外中国学術交流協会,  
中国旅美科技協会

## 開催期間

2003年12月20日(土)～21日(日)

## 会場

〒150-6031 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー SGI ホール  
<http://www.gardenplace.co.jp/ygptower/>

## 交通

JR 恵比寿駅東口からは動く通路「恵比寿スカイウォーク」で約 5 分。  
<http://www.gardenplace.co.jp/access/>

## 組織

大会委員長	任福継 (徳島大学)
大会実行委員長	劉学振 (三菱プレシジョン株式会社)
副大会実行委員長	趙鳳濟 (SMC Networks Co., Ltd. (JAPAN))

### 組織委員会

委員長	李 磊 (法政大学)
副委員長	呉景龍 (香川大学)
組織委員会委員	王立石 (長春市政府)
	石 岩 (九州東海大学)
	高学明 (日本 SUC 株式会社)
	劉 真 (株式会社ニコン)
	加藤ジェーン (名古屋大学)
	張 兵 (ATR 適応コミュニケーション研究所)
	王玉来 (国立精神・神経センター神経研究所)
	干力行 (株式会社ニデック)
	張紀南 (城西国際大学)
	王秀崙 (三重大学)
	鄒珍珍 (株式会社ミノファーゲン製薬)
	周盛宗 (全歐華人專業協會聯合會)
	謝家葉 (中国旅美科技協会)
	石德利 (全法中国科技工作者協会)
	楊克儉 (在日中国科学技術者聯盟)

---

	顔 安 (誠成日本株式会社、日本中華総商会)
	呉 敦 (株式会社ノーステクノロジー)
	汪志平 (札幌大学)
	陳延偉 (琉球大学)
	張 科 (Silicon Valley Software Technology Association)
	王建軍 (海外中国学術交流協会)
<b>宣伝担当</b>	加藤 ジェーン (名古屋大学)
<b>会計担当</b>	張 兵 (ATR 適応コミュニケーション研究所)
<b>出版担当</b>	劉 真 (株式会社ニコン)
<b>中国国内連絡担当</b>	王立石 (長春市政府)
<b>プログラム委員会</b>	
<b>委員長</b>	張樹槐 (弘前大学)
<b>副委員長</b>	郭書祥 (香川大学)
<b>委員会委員</b>	任向実 (高知工科大学)
	宋碩林 (株式会社アプライトシステムズジャパン)
	呉南健 (電気通信大学)
	趙新為 (東京理科大学)
	張善俊 (神奈川県大学)
	黄 強 (北京理工大学)
	王 欣 (Oita Institute of Technology)
	那 杰 (東京医科歯科大学)
	查紅彬 (北京大学)
	彭智勇 (武漢大学)
	易建強 (中国科学院自動化研究所)
	林 新 (独立法人 産業技術総合研究所)
	劉 迪 (早稲田大学)
	陳春祥 (広島市立大学)
	丁大橋 (通信総合研究所)
	李雲慶 (日本スペースイメージング株式会社)

---

## 講演プログラム

12月20日(土) 13:00~

13:00~13:15 開会式

司会： 劉 学振 (三菱プレシジョン)

開会挨拶

博士協会会長 任 福継 (徳島大学)

来賓紹介

博士協会常務副会長 李 磊 (法政大学)

来賓挨拶

中国大使館領事部 張 立国 総領事

13:15~15:40 招待講演

司会： 李 磊 (法政大学)

13:15~13:55 招待講演 1

把握創業の歴史機遇--中国吸引華僑華人來華創業的政策措施介紹

譚 天星 (國務院僑弁經濟科技司副司長、博士)

13:55~14:35 招待講演 2

中国高新技術産業發展現狀及展望

李 臨西 (科技部火炬中心總工程師、教授)

14:35~14:45 コーヒーブレイク

14:45~15:15 招待講演 3

Regenerative Medicine Based on Human Embryonic Stem Cells

馬 峰 (東京大学医科学研究所)

15:15~15:35 招待講演 4

PDFAMS ご紹介・SARS モデリング事例紹介

齋藤 智, 飯田 彰 (日本 SGI 株式会社ソリューション開発推進本部)

15:35~15:40 製品紹介

--日本 SGI の VR ソリューション

加藤 慎也 (日本 SGI 株式会社)

15:40~15:50 コーヒーブレイク

同時開催イベント

日本 SGI 株式会社のリアルタイムビジュアライゼーションデモ

場所： SGI ホール

**15:50~17:35 Session 1 一般講演****司会： 吳 景龍（香川大学）**

15:50~16:05 光ファイバセンサによる災害防止の研究開発

王 勇, 岸田欣増（大阪大学、ニューブレクス株式会社）

16:05~16:20 多自由度生物型水中マイクロ歩行ロボットに関する研究

郭 書祥（香川大学）、奥田勇也（香川大学）、安積 欣志（産総研関西センター）

16:20~16:35 人間の上肢距離知覚の基礎と応用

吳 景龍, 楊 家家, 河内山隆紀（香川大学）

16:35~16:50 Anatomical and Radiological Studies on Degenerative Changes  
of the Ulnar Wrist

Hao-Gang Xue, Chun-Ying Yang, Shan-Shun Luo (Nippon Medical School)

Yoshiki Hamada (Yamanashi University)

16:50~17:05 Thrombopoietin activated the cell cycle of blasts from Patients with  
Myelodysplastic Syndromes

Shan-Shun Luo, Chun-Ying Yang, Hao-Gang Xue Kiyoyuki Ogata,

Kazuo Dan (Nippon Medical School)

17:05~17:20 A Dental Training System in Virtual Environment

Lian-yi Chen (Nagoya Institute of Technology)

17:20~17:35 Smart windows in architecture for energy saving

Ping Jin(National Institute of Advanced Industrial Science &  
Technology)**18:00~20:00 懇親会**

12月21日(日) 8:30~

08:30~10:00 Session 2 一般講演

司会：張兵 (ATR)

- 08:30~08:45 中国の日系企業現状に対応できる賃金制度があるのか：  
—組織の整合性からのアプローチ  
章 慧南 (東京福祉大学)
- 08:45~09:00 中国の古文獻に見られる日本語について  
蔣 垂東 (文教大学文学部)
- 09:00~09:15 医薬産業の発展の動向  
郭 秀麗 (タイコヘルスケアジャパン株式会社)
- 09:15~09:30 Comparative Study of the 30 Anorexia Nervosa Patients in China and Japan  
Xiaolin Shi (Tokyo Medical University)
- 09:30~09:45 基因工程的現状和全球製薬業の最新発展戦略動向及我国的発展方向  
宋 碩林 (美国 Applera 集团(原 PE) 应用生物系統公司日本公司)
- 09:45~10:00 南アフリカの研究と教育改革について  
Hongkun Xu (南アフリカダーバン大学)

10:00~10:15 コーヒーブレイク

10:15~12:00 Session 3 一般講演

司会：加藤 ジェーン (名古屋大学)

- 10:15~10:30 SH 模型：系統与人交互作用的模型  
孔 京, 任 向実 (高知工科大学), 姜 興起 (旭川大学)
- 10:30~10:45 A study of the Optimal Sizes for Pen-Input Character Boxes  
Taishi Kato, Jing Kong, Xiangshi Ren (Kochi University of Technology)
- 10:45~11:00 液晶分子の配向制御  
汪 映寒 (大日本インキ化学工業株式会社液晶材料技術本部)
- 11:00~11:15 A Study Noise and Vibration of Planetary Gear Drives  
Yong Chen (Product Development Division of JATCO Ltd)
- 11:15~11:30 航空機の応答に基づく空港舗装平坦性の評価  
Qinxu Dong, Kenji Himeno (中央大学),  
Yoshitaka Hachiya (National Institute for Land and Infrastructure Management)

- 11:30~11:45 Diffusion Coefficients of Lipids in Supercritical Carbon Dioxide  
Chang Yi Kong, Seiichiro Kagei (Yokohama National University)
- 11:45~12:00 A Novel Architecture without Crossbar for Fast Switch Core  
Chun-Xiang Chen (広島県立大学)

**12:00~13:00 コーヒーブレイク**

**13:00~14:15 Session 4 一般講演 司会：張 善俊 (神奈川大学)**

- 13:00~13:15 Development of Hybrid Volume Graphics Cluster  
Xuezhen Liu (Mitsubishi Precision Co., Ltd.)
- 13:15~13:30 Robust Acquisition of Transportation Information  
Jien Kato and Ying Liu (名古屋大学)
- 13:30~13:45 An Improved Neuro-Fuzzy Learning Algorithm  
Yan Shi (Kyushu Tokai University),  
Yongmao Wang, Xiaozhu Zhong (Yanshan University)
- 13:45~14:00 Toward the Realization of Platform for Ad Hoc Networks  
Bing Zhang, Masakatsu Kosuga and Shinsuke Tanaka (ATR Adaptive Communications Research Laboratories)
- 14:00~14:15 室内空気中の揮発性有機化合物 (VOC) の分析測定技術  
金 鳳鶴 (株環境技研 技術部)

**14:15~14:30 コーヒーブレイク**

**14:30~15:30 Session 5 一般講演 司会：趙 鳳濟 (SMC Networks Co., Ltd.)**

- 14:30~14:45 人間の顔認識時の注視点移動特徴について  
張 善俊, 吉野和芳 (神奈川大学)
- 14:45~15:00 On automatic acquisition of sensitivity information  
Fuji Ren (The University of Tokushima)
- 15:00~15:15 一般占有問題計数の漸近的アプローチ  
李 磊 (法政大学)
- 15:15~15:30 リンゴ果実の品質評価への三次元画像計測技術の応用  
須藤洋史, 張 樹槐, 福地 博, 荒川 修 (弘前大学)

**15:30~15:35 閉会式 司会：張 樹槐 (弘前大学)**



中国大使館領事部 張立国総領事  
光临大会并作指导



中国大使館教育处 李东翔公使参赞  
光临大会并作指导



国务院僑弁経済科技司副司长  
譚天星博士作讲演



科技部火炬中心総工程師  
李臨西教授作讲演



认真听取讲演的协会会员等



会后一部分会员合影留念



# 全日本中国人博士協会会館開館

在中国对外应用技术交流促进会的关怀与支持下，全日本中国人博士协会会馆于 2004 年 6 月正式开馆。

会馆地址：東京都豊島区池袋 3 - 1 4 - 2

TEL: 03-5992-2831、FAX: 03-5992-2834

交通：地下鉄有楽町線要町駅 5 番出口徒歩 3 分、JR 池袋駅北口徒歩 10 分

开馆仪式于 2004 年 6 月 13 日(星期日)举行，中国对外应用技术交流促进会东京事务所马时所长主持，中国驻日本大使馆教育处李东翔公使参赞，張嘉蘭书记官，大使馆科技处叶冬柏参赞亲自驾临开馆仪式，并作了重要讲话。鼓励博士协会更上一层楼，更好的做好为国服务。博士协会任福继会长致开馆辞，并作了“让我们的世界更加美好”为主题的演讲。博士协会副会长，事务局成员，理事会成员，会员等共参加了开馆仪式。

在开馆仪式上，博士协会正式聘请马时同志为协会会馆馆长。

CCTV-9 的邹大庆部长，王大星编成局长，日本侨报段跃中编辑长等中文媒体也参加协会会馆开馆仪式并给予报道。

会館外観



剪彩儀式



部分参加人员合影留念



大使館教育処李東翔公使參贊講話



任福繼會長作演講



大使館科技処葉冬柏參贊講話



大家舉杯同慶會館開館



馬時館長講話



新聞報道



開館式會場一角

## 让我们的世界更加美好

在“全日本中国人博士协会”开馆典礼上的讲话

任福继

2004年6月13日

各位领导、各位代表、各位朋友：

下午好。

在繁华辉煌的东京涩谷，在温馨祥和的夏日周末，有机会与各位欢聚在这里，共同庆祝“全日本中国人博士协会”会馆开馆典礼，作为全日本中国人博士协会会长，感到无比兴奋、喜悦和自豪。

这是“全日本中国人博士协会”365名正式会员、3800名参与会员、以及对博协寄与厚望、给予支持的难以计数的朋友们，难以忘怀的日子。

这是“全日本中国人博士协会”发展史上的一个里程碑！

这是值得大庆特贺的时刻！

按照博士协会低调行事之惯例，秉承博士协会务实、踏实、谦逊的风格，今天，博士协会理事会只邀请了多年来一直指导、关怀、鼓励、支持我们的大使馆教育处李东翔公使参赞、张嘉兰书记官、大使馆科技处叶冬柏参赞、朴明哲书记官、中促会马时所长等少数贵宾，前来与博士协会会员代表相聚在博协会馆，共度美好时光。

借此机会，请允许我代表博协，向在百忙之中调整日程光临会馆的李东翔公使参赞、张嘉兰书记官、叶冬柏参赞、朴明哲书记官、马时所长等贵宾表示热烈欢迎和衷心感谢。

借此机会，我也代表博协，对始终爱护、支持、协助、指导我们的中日两国政府机构、民间团体、友好人士表示真诚的感谢和良好的祝愿。

各位朋友：两个小时前，我们刚开了博协理事会，今年博协已满八周岁了。

八载春秋，在改革开放恢复留学20年的时标上，

在中日恢复邦交正常化30年的时标上，

在中国人留学日本130年的时标上，

在中日友好交往2000年的时标上，

在中华民族文明史5000年的时标上，

八个春秋只是一个点，只是一个小小的点。但是，在这过去的2920个日日夜夜，随着中国的飞跃发展，伴着中日友好的深化和升华，博协留下了一串串坚实的脚印，谱写了一曲动人的赞歌，取得了一个个可喜的成就。

在美利坚合众国的华盛顿、在法兰西的巴黎、在大不列颠的伦敦。。。在这些著名的科学殿堂上，随时传出了博协会员精彩的演讲。

在东瀛这片土地的国、公、私立大学讲堂上，企业高层决策圆桌上。。。随时辉映着博协会员的身影。

在抗洪救灾、在希望工程、在抗击非典时，以及在西北大开发、东北大振兴的行列中，

随时书写着博协会会员的名字。

在科协青年学术年会、在海外智力为国服务。。长江学者、特聘教授、市长助理、中科院海外评审专家、政府顾问，。。这些关键词都紧随着博协会会员。因为无论在青藏高原、在乌鲁木齐、在东北三省，还是在外滩、在三角洲、在中关村，随时都有博协会会员的故事在传扬。

在博协中，广大会员的意志得到锤炼、情操得到陶冶、精神得到升华、品质得到提高，团体的力量得到巨大的发挥。

实践证明，博协的“务实·创新·贡献”的宗旨是经得起风雨和岁月考验的。事实上，任何留学人员团体，任何华人华侨组织，要使其永葆青春，充满活力，都必须要有务实的作风。十多年前我提出的“没有思想的组织都将灭亡，没有贡献的组织是变相的犯罪”，仍具有现实意义。

朋友们！博士协会有了会馆，就如奋斗·闯荡的游子有了一个安身的家园！我们十分感谢中国科协中促会的好意！我们将珍惜，我们将更努力前行。

昨天晚上，我看了一本书。

麦克·哈特知识渊博，拥有四个学位，其经历和学识让他有胆量去写了一本“一百位有历史影响的人物排名”。在今天开馆典礼上，我想列出其前十位，因为其中有两位是中国人。

第一位穆罕默德(伊斯兰教创立人)；

第二位牛顿(就是那位被苹果砸了鼻子的科学家)；

第三位耶稣(基督教奠基人)；

第四位释迦牟尼(佛教创始人)；

第五位孔夫子(我们的孔老二)；

第六位保罗(基督教思想家)；

第七位蔡伦(造纸术发明人)；

第八位戈登保(印刷术发明人)；

第九位哥伦布(发现新大陆)；

第十位爱因斯坦；

我之所以在此列出这些人物，是要与我们全体会员共勉。中国人要对世界做出更大的贡献，这中国人当然包括华侨华人及海外留学人员。因此在架桥·牵线的同时，今后更要积极的投身参与所在国的科技·文化·经济乃至政治。这不仅仅是要争取的权利，更是义不容辞的义务和责任。可以断言，成批的中国人科学家、专家、教授、艺术家、CEO的出现，杰出的华人议员、校长、州长乃至总统的产生，就是中国人对世界的贡献。

当然，我要强调，多数留学人员回到祖国，兢兢业业，复兴伟大的中华民族，繁荣九百六十万平方公里的华夏，富强十三亿五千万的炎黄之后，更是中国人对人类的贡献。

从今天开始博协有了一个家！更有了一份信任。博协拥有了一个向前发展的基盘，更有了一份责任。让我们期待，让我们参与，让我们的世界更加美好！

谢谢！

# おめでとうございます！

## 第12回源内賞の源内大賞受賞 －徳島大学任福継教授

香川大学の呉景龍教授が第10回源内大賞の受賞に続き、徳島大学任福継教授は第12回源内大賞を受賞された。

源内賞の種類と金額：

財団法人エレキテル尾崎財団による源内賞は、平賀源内の功績をたたえるために四国内研究者が行なった研究業績や研究・発明に対して贈られるものであり、選考は7人の専門委員と5人の選考委員によって行なわれる。

源内大賞 1件程度 100万円

学術性，実用性，発展性，社会貢献，電気通信情報産業への影響など。

源内奨励賞 2件程度 各30万円

学術性，実用性，発展性，奨励効果，電気通信情報産業への影響など。

貢献賞

独創性，実用性，公共性，地域振興，電気通信情報産業への影響など。

過去の受賞者一覧：

### 源内大賞

- 1回 松尾裕英(香川医大)
- 2回 なし
- 3回 なし
- 4回 木内陽介(徳島大)
- 5回 鈴木茂行(徳島大)
- 6回 加納博文(産総研四国)
- 7回 岡本研正(香川大)
- 8回 新谷義廣(徳島大)
- 9回 矢野米雄(徳島大)
- 10回 呉 景龍(香川大)
- 11回 馮 旗 (香川大)
- 12回 任福継，大西徳生(徳島大)

### 源内奨励賞

- なし
- 松下浩明(詫間電波)
- 原圃正博，高畑秀行(高松高専)
- 寺田賢治(徳島大)
- 上田哲史，樋口弘史，近藤敬一
- 大家隆弘(徳島大)
- 安野卓(徳大)，水重克文(香川医大)
- 田中芳夫(産総研)，吹田義一(高松高専)
- 大家利彦(産総研)
- 王 正明(産総研)
- 能美公博(香川大)
- 神野雅文(愛媛大)

## 授賞式での挨拶 任福継

おはようございます。

ご紹介頂いた徳島大学工学部教授の任福継です。

本日、第12回源内賞を受賞頂き、非常に嬉しくて、大変光栄なことと思っております。

ここに、今回の源内賞、源内奨励賞、貢献賞等の受賞者を代表して、財団法人エレキテル尾崎財団、源内賞選考委員会の皆様、事務及び関連関心の皆様に心からの感謝を申し上げます。

エレキテル尾崎財団が1993年設立されてから、平賀源内の遺業をたたえ、発明工夫の思想の啓発普及に努めるとともに、電気・通信技術等の研究に関する助成を行い科学技術の向上に資することに大きく貢献なされております。

21世紀は情報社会と言われております。日本では「2005年に世界最先端のIT国家となる」という目標により、2001年にスタートしたe-Japan戦略の下で情報インフラの整備が進められ、2003年には計画を前倒ししてe-Japan戦略IIがスタートしております。この第2期計画では「IT活用による“元気・安心・感動・便利”社会を目指す」ことが目標とされており、社会での情報インフラの本格的な活用が計画されております。このような“元気・安心・感動・便利”社会を創るには、「感情」「感性」というキーワードを避けては行けません。今回受賞のテーマである「スーパー関数による言語処理及び感情インターフェースの構築」については、来るべきコミュニケーション・ビジネスの発展のために、日本からの発信として、国際社会に大いに貢献できると同時にe-Japan戦略IIの実現には大きく寄与することができると考えております。

今回の受賞は我々の研究を強くサポートしているものであり、我々に大きな激励を与えると同時に、新しい活力と強いパワーを与えております。

これからも、源内賞の榮譽に恥じぬよう、いっそうの努力を続けてまいりたいと思っておりますが、どうぞ引き続きご鞭撻ご指導の程お願い申し上げます。

簡単ながら、受賞の謝辞とさせていただきます。

どうも有り難うございました。



2004 世界工程师大会  
暨  
中国科协第五届青年学术年会  
联合报导

2004 世界工程师大会于 2004 年 11 月 2 日—6 日在上海国际会议中心举行。博协理事会任福继博士，刘学振博士应邀参加了此次大会。

中国科协第五届青年学术年会于 2004 年 11 月 2 日—5 日在上海同济大学和上海交通大学举行。博协理事会任福继博士，赵凤济博士，刘学振博士应邀参加了此次年会。任福继博士还应邀出席了年会的学术峰会，并作为海外代表作了专题报告。刘学振博士在此次年会上作了《集高速模拟计算与实时可视化于一体的计算机集群系统的开发》的学术发表。

作为博协代表，任福继博士，赵凤济博士，刘学振博士还出席了由中国科协主办的海外代表座谈会，与周光召主席，邓楠党组书记，张玉台副主席进行了非常有意义的座谈。



中国科协周光召主席，  
邓楠党组书记，张玉台  
副主席与海外代表座谈

任福继博士在海外代表  
座谈会上发言



大众科技报报导:

2 大众科技报

2004年11月5日

盛会·要闻



2004 世界工程师大会刊

WORLD ENGINEERS CONVENTION 2004

# 学术年会助青年科学家展翅高飞 中国科协第五届青年学术年会闭幕



**本报讯** 记者段佳报道 为期3天的中国科协第五届青年学术年会以学术峰会形式作为总结,于11月4日会议在上海交通大学落下帷幕。中国科协副主席张玉台出席会议,并希望海内外青年科学家能够早日成才,报效祖国。中国科协书记处书记冯长根在年会闭幕时讲,青年学术年会不仅为青年

科学家们提供了学术交流的会和舞台,也为青年科技学术骨干人才的脱颖而出创造了条件。今后,中国科协将继续努力办好青年学术年会,把年会办成青年科技工作者的学术盛会,同时使年会成为推动青年科技人才成长的生机勃勃的舞台,帮助青年科学家展翅高飞。第五届青年学术年会共有

14个分会场,与会青年科技工作者在不同学科的分会研讨中,就自己学术研究领域的问题进行了广泛而深入的讨论。在4日的大会学术峰会上,14个分会的代表就各分会研讨结果在全体大会上做了简短而精彩的总结。虽然不同的学科各有其不同的专业内容,但每位代表的发言都赢得了全场热烈的掌声。

冯长根在总结发言时说,学术峰会中各学科代表作的报告首先起到了“显微镜”的作用,代表们把各学科中微观的东西通过讲演进行了放大,使各学科的

学术观点,学术见解能够互相碰撞,互相借鉴,也使所有的代表能够充分交流,相互启发;同时,这些报告又都是“望远镜”,报告中各学科前瞻性的论点和研究的最新成果,展现了科学技术发展的远景图像。学术峰会本身是对学术年会的总结,它好比是战斗胜利的战报,又是明天走向科技战场的号角,它体现了学术年会的精华。

冯长根说,中国科协青年学术年会自1992年创立以来,先后于1992年、1995年、1998年、2001年和今年成功举办5届。青年科技工作者们在会上有过多次学术新观念的碰撞,年会也不断激励着青年科技工作者产生科研的新动力,一大批青年科技工作者通过青年学术年会崭露头角,受到学界的关注,逐步成长为科技中坚力量。

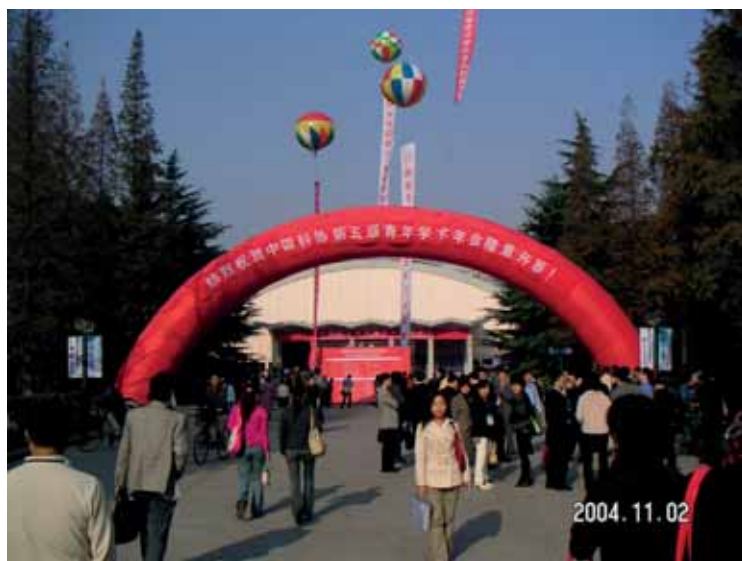
冯长根认为,没有搞科学的人是不热爱学术交流的,因为不重视学术交流,就不容易碰撞出科学的火花,就得不到科学灵感,也就很难不断地进入新的科研境界。学术交流使学术队伍整体充满了活力,并保持很强的生命力。中国科协通过举办青年学术年会,鼓励青年科技工作者面向未来,勇于创新,肩负起历史重任,更多地参与解决当今我国科技发展以及经济建设、社会发展中的重大问题,推动青年科技工作者的为我国全面建设小康社会作出贡献。

冯长根表示,希望与会代表和广大青年科技工作者集思广益,探讨年会的举办形式,推动年会的机制创新,使青年学术年会与时俱进,越办越好,成为推动青年科技人才成长的起飞平台。

## 大会闭幕式同样精彩

## 中国水电工程的可持续发展备受关注

中国科协第五届青年学  
术年会会场入口处  
-同济大学



中国科协第五届青年学  
术年会开幕式会场  
主席台上

参加中国科协第五届青  
年学术年会的博协代  
表:任福继博士,刘学振  
博士在年会会场  
-摄影:赵凤济博士



2004 世界工程師大會  
主會場



任福繼博士出席 2004 世  
界工程師大會

劉學振博士出席 2004 世  
界工程師大會



2004 世界工程師大會  
晚會會場一角